

見守り 新鮮情報

事例1 入浴後**ヘアドライヤー**を使っていたら、**コード部分**から**火花**が散り、右腕の内側に軽い**やけど**を負った。(70歳代 女性)

事例2 1年半前に購入した**ヘアドライヤー**を使用したら、**火花**が散った。火花でドライヤーが焦げ、カーペットと衣服にも焦げ跡が残った。メーカーに連絡すると、本体に**コードを巻き付けて収納**していたことが**原因**だと言われた。
(70歳代 女性)



©Kurosaki Gen

ヘアドライヤーから発火!? 取り扱いに気を付けて

ひとこと 助言

異常がないか
確認してね



見守るくん

- ヘアドライヤーのコードは、使用や保管の際に、屈曲やねじれが繰り返されることにより損傷し、発煙や発火などの原因となることがあります。
- 特に、本体にコードを巻き付けて保管すると、コードに屈曲による負荷がかかったり、ねじれが蓄積したりして損傷しやすくなります。本体にコードを巻き付けて保管しないようにしましょう。
- コードに損傷がみられる、一部だけ熱くなる、使用中にヘアドライヤーが止まるなどの異常に気付いたら、すぐに使用をやめましょう。定期的にコードや本体に異常がないか確認することも大切です。
- 基本的な使い方は分かっても、使用の際は取扱説明書をよく読み、注意・警告事項を正しく理解しましょう。